

原因・理由文をめぐる日タイ対照研究 ——原因・理由文の分類について——

Piyatorn KAEWWATTANA

1. はじめに

本研究の目的は、日本語とタイ語の原因・理由文を比較対照して、同じ分類方法で原因・理由文を分類することが可能であるかどうかを明らかにすることである。さらに、このことを明らかにすることによって、日本語とタイ語の間には、原因・理由文についてどのような共通点および相違点があるのかを発見することを期待している。原因・理由文は、日常生活でも非常に重要な文の一つであり、日本語には様々な原因・理由文が存在している。そのため、日本語における原因・理由文および原因・理由表現の研究が盛んである。分類方法のみならず、それぞれの表現の機能特徴の研究が行われている。それに対して、タイ語における原因・理由文の分類や表現の機能特徴などの研究はまだ少ない。そこで、細かい分類がまだ行われていないタイ語の原因・理由文および原因・理由表現を日本語の分類方法で同じように分けることが可能であるかを試すこととした。日本語でもタイ語でも、原因・理由文の定義を決定することはまだ難しいが、日本語においては益岡(1997)や田中(2004a)、前田(2009)などの先行研究が存在する。特に、前田(2009)では原因・理由文の分類に関する考察を行っている。一方、タイ語の原因・理由文に関しては、Phrayaa Upphakitsilpasan(1937)やKhamchai(2009)などで考察されている。本稿は、これらを先行研究として、本文で日本語と比較考察をする。

2. 日本語における原因・理由文の分類

前田(2009)は、原因・理由文の「前件」、つまり複文の中の前節がどんな内容を表すかによって、原因・理由文を3分類に分けることができると述べている。すなわち、「原因・理由」「判断根拠」「可能条件提示」である。さらに前田(2009)は、それぞれは「どうして」という質問文に関わっていると述べている。

「原因・理由」とは、原因・理由を表す原因・理由文のことである。このタイプは、「前件」が「後件」の原因または理由を表す内容を持ち、最もシンプルな原因・理由文だともいえる。また、この種類の原因・理由文の前節は、「どうして(後節)を実行するのか」という質問に対して答えているという特徴がある。

「原因・理由」では、後節が動作ではなく、状態を表す場合でも、この種類の原因・理由文に入ると考えられる。例えば、次の例文である。

- 1) 雨が降ったので、気温が低下した。^{④ (1)}

次の「判断根拠」は判断の根拠を表す原因・理由文のことである。上記の「原因・理由」と似ているが、前節が後節の原因・理由を表すだけでなく、判断の根拠も表す。

2) バスが定時にちゃんと来たから、道路は込んでいないんだ。^④

上記の例文 2) では、「道路は込んでいないんだ」は話し手による判断であり、前節はその判断の根拠である。この種類の原因・理由文の前節は「どうして（後節）だと判断する／できるのか」という質問に対して答えているという特徴がある。また、前田（2009）は、判断の根拠を表す原因・理由文の前節と後節を置き換えれば、原因・理由を表す原因・理由文になるという特徴もあると述べている。例えば、次の例文である。

3) 道路が込んでいないから、バスが定時にちゃんと来たんだ。

最後の「可能条件提示」は、可能条件を提示する原因・理由文のことである。この種類の原因・理由文には二つの性質があり^②、前節が後節の原因・理由を表さず、判断の根拠も表さない原因・理由文である。そのため、「どうしてそうなるのか」や「どうしてそう判断できるのか」などの質問の答えとしては使えない。しかし、「どうしてそんなことが可能なのか」という質問に対しての答えには使える。また、前田（2009）では、この種類の原因・理由文は、原因・理由を表すとは言い難い原因・理由文であるとも述べている^③。

さらに、「可能条件提示」における前節は、「どうして可能なのか」という質問に対しても全く答えとして使えない場合もある。例えば、次の例文である。

4) もういいからさっさと料理を作れ。^③

本稿では、上記の前田（2009）の分類方法を援用して、比較考察をする。

3. タイ語の原因・理由文と比較

タイ語の複文の定義は日本語と異なっている部分があるが、タイ語の原因・理由文も複文の一つだと考えられる。Phrayaa Upphakitsilpasan (1937) によれば、タイ語における従属節は大きく三種類に分けることができると述べている。その中の一つに「副詞節」がある^④。「副詞節」はさらに六つの種類に分けることができ、その中に「原因・理由を表す副詞節」が含まれている。それはタイ語の原因・理由節そのものだともいえる^⑤。タイ語の原因・理由文は、次のような例文が挙げられる。下線部は原因・理由節である。

5) ผมเขียนมาเพราะอยากให้ผู้อ่านทุกท่านคิดให้ดี^⑤

僕は読者の皆さんによく考えて欲しいので、書いて送りました。^①

6) เมื่อวานเจ้าของโรงแรมไม่กลับมา แต่ไม่มีใครใส่ใจเพราะมีงานเทศกาล^⑥

オーナーは昨夜帰ってこなかったが、祭りなので誰も気にしていなかった。^②

タイ語の語順は日本語と異なっているため、上記の例文のように、タイ語の前節が日本語の後節になることもある。上記の例文 5) と 6) では、従属節が主節の原因・理由を表すため、日本

語における「原因・理由」の種類に入ると考えられる。前田(2009)の分類方法を援用し、これらの例文を「どうして」という質問に対する応答文にすると、次のように書くことができる。

7) A:「ทำไมจึงเขียนมา?」(どうして書いて送りましたか?)

B:「เพราะผมอยากให้อ่านทุกท่านคิดดูให้ดีๆ」

(僕は読者の皆さんによく考えて欲しいからです。)

上記の例文7)のように、タイ語も日本語と同様、従属節を質問の答えとして使うことができ、主節の原因・理由を表す。つまり、タイ語の原因・理由文も日本語の「原因・理由」と同じ特徴を持つと考えられる。

次に、「判断根拠」の例文を挙げる。

8) โทรศัพท์ไปกี่ครั้งก็ไม่อยู่ เลยคิดว่าคุณอาจไปเที่ยวแน่ๆ^⑧

何度電話してもいないから、アリさんは旅行にでも行っているに違いない。^⑧

上記の例文8)では、「เลย」という結果を表す表現が使われたため、節は日本語と同じ順番になっている。内容は日本語と同様、原因・理由のみならず、判断の根拠を表す意味も持っていると考えられる。これは、例文8)を応答文にすることで分かる。

9) A:「ทำไมจึงคิดว่าคุณอาจไปเที่ยวแน่ๆ?」

(どうしてアリさんは旅行にでも行っていると判断できる/思うんですか?)

B:「เพราะโทรศัพท์ไปกี่ครั้งก็ไม่อยู่ (何度電話してもいないから)」

さらに、上記の9)のように、この種類の原因・理由文は「どうしてそう判断できるのか」、「どうしてそう思うのか」という質問に対しても前節が答になることが確認できる。そして、タイ語でも、日本語と同じように応答文にすることが可能であることも分かる。ところが、次のような例文もある。

10) ไม่มีปรากฏในแผนที่สมัยสมเด็จพระนารายณ์ในสมัยอยุธยา ดูเหมือนว่าจะสร้างหลังจากนั้น^⑦

アユッタヤー時代でも、ナーラーイ大王のころの地図にはのっていなかったので、その後建てられたようです。^⑦

上記の10)のタイ語文では、原因・理由表現がない。しかし、「ดูเหมือนว่า」という話し手の判断を表す表現も現れているため、判断の根拠を表す原因・理由文であることが分かる。

11) A:「ทำไมจึงคิดว่าน่าจะสร้างหลังจากนั้น?」(どうしてその後建てられたと思うんですか?)

B:「เพราะไม่มีปรากฏในแผนที่สมัยสมเด็จพระนารายณ์ในสมัยอยุธยา」

(アユッタヤー時代でも、ナーラーイ大王のころの地図にはのっていなかったので)

このように、10)を応答文にすると、原因・理由表現が現れる。また、10)の場合、「判断根拠」から「原因・理由」にすることが可能である。ただし、判断の根拠を表す文ではなくなるため、「～ようです」という表現もなくなる。

12) ไม่มีปรากฏในแผนที่สมัยสมเด็จพระนารายณ์ในสมัยอยุธยาเพราะสร้างหลังจากนั้น

その後建てられたので、アユッタヤー時代でも、ナーラーイ大王のころの地図にはのっていないかった。

このように、「原因・理由」と同様、「判断根拠」の場合でも、タイ語の原因・理由文は日本語と同じ特徴を持つと考えられる。

しかし、「可能条件提示」の場合はどうだろう。

13a) เขายังมีเวลา คุณพักผ่อนให้สบาย^⑦

まだ時間がありますから、ゆっくり休んでください。^⑦

例文 13a) の原因・理由節が可能条件を表すものである。この例文のタイ語文では、原因・理由表現が現れていないが、「เพราะ」などを使用することも可能である。

13b) คุณพักผ่อนให้สบาย เพราะเขายังมีเวลา

この例文ではタイ語でも日本語と同じように、意味的には従属節が原因・理由を表すというよりは、主節の行動を実行することが可能になる条件を表すといえる。この例文ならば、タイ語でも「どうしてそのようなことが可能になるのか」という質問の答えとして使うことができると考えられる。

14) A : 「คุณพักผ่อนให้สบายเถอะ」 (ゆっくり休んでください)

B : 「ทำไมจึงทำเช่นนั้นได้ล่ะ」 (どうしてそのようなことができるんですか?)

A : 「เพราะเขายังมีเวลา」 (まだ時間がありますから)

上記の例文 14) を見れば、日本語の「可能条件提示」と同様に、形式的に応答文にすることが可能であることが分かる。しかし、「どうして」という質問文の答えとして使えない場合の原因・理由文もある。次の例文がそうである。

15a) ที่อยู่ยามีวัดเก่าเยอะค่ะ วันนี้เรามาค่อยๆดูกันไปเรื่อยๆตามสบายนะคะ^⑦ ⑥

アユッタヤーは古いお寺がいっぱいありますから、今日はゆっくり見物しましょう。^⑦

上記の例文 15a) のタイ語文では、因果関係を表す表現が現れていない。しかし、次のように、結果を表す表現を使うことも可能だと考えられる。

15b) ที่อยู่ยามีวัดเยอะค่ะ เพราะฉะนั้นวันนี้เรามาค่อยๆดูกันไปเรื่อยๆตามสบายนะคะ

ところで、上記の例文 15a) と 15b) は、タイ語の場合でも日本語の場合でも「どうして」という質問文の答えにはならない。さらに、タイ語文では 15b) のように結果を表す表現を使うことが可能であるが、わざわざ使う必要はないと考えられる。それは、この例文の前節の内容が後節の原因・理由にならないからである。すなわち、因果関係が見られないため、日本語の場合と同様、原因・理由文だとは言いがたい例文であるといえる。また、タイ語の場合では因果関係を表す表現を使う必要もないため、最初からこのような文は原因・理由文だとは認識されていない可能性がある。つまり、日本語では例文 15a) でも原因・理由文の一種だと認識されているのに対して、タイ語の場合では原因・理由文として認識されていないと考えられる。

4. まとめ

日本語における原因・理由文は、前田（2009）によれば、3分類に分けることができる。そして、その分類方法の考えを考慮して、タイ語の原因・理由文と比較考察した結果、次の共通点および相違点を発見した。まず、「原因・理由」では、タイ語も「どうしてそれを実行するのか」に対する応答文にすることができるという特徴がある。次に、「判断根拠」では、タイ語も日本語と同様、原因・理由を表す節が、判断の根拠を表していると考えられる。さらに、タイ語も「どうしてそう判断できる／思うのか」に対する応答文にすることができる。最後に、タイ語も日本語と同様、「可能条件提示」を表す文が存在する。この場合、原因・理由も判断の根拠も表さない。「どうしてそのようなことが可能になるのか」に対する応答文にすることができる場合もあるが、そうでない場合もある。また、タイ語では因果関係を表す表現が必要とされない場合があるため、原因・理由文として認識され難い可能性がある。さらに、この種類の原因・理由文では、タイ語の場合、日本語と同様に主節に可能の条件を提示する意味を表すとは限らないと考えられる。以上により、共通点と相違点があることが分かるが、まだ明らかにされていない部分もあり、さらなる検討が必要である。

注

- (1) 例文につけた番号は、以下の出典を表す。
- ① 時雨沢恵一（2000）『キノの旅Ⅱ』電撃文庫, KADOKAWA 出版
 - ② 時雨沢恵一（2001）『キノの旅Ⅳ』電撃文庫, KADOKAWA 出版
 - ③ 時雨沢恵一（2002）『キノの旅Ⅵ』電撃文庫, KADOKAWA 出版
 - ④ 前田直子（2009）『日本語の複文』くろしお出版
 - ⑤ Piyawan Subsamruam. 2009. *KINO NO TABI 2*. Bangkok : Bliss publishing Press.
 - ⑥ Piyawan Subsamruam. 2009. *KINO NO TABI 4*. Bangkok : Bliss publishing Press.
 - ⑦ Piyajit Thardeang, Monthar Pimthong. 2000. *PhaasaaYiipun Chut TheawMuangThai*. Bangkok : Chulalongkorn University Press.
 - ⑧ Wiirawan Washiradirok. 2009. *500 Essential Japanese Expressions : A Guide to Correct Usage of Key Sentence Patterns*. Bangkok : TPA Press.
- (2) 一つ目は「必ず命令・禁止・依頼・勧誘など、聞き手に何らかの行動をするように働きかける表現がくること」であり、二つ目は「表される意味は、相手の何らかの行為実行のための条件を提示するものだと言うこと」である。
- (3) 白川（1995）は質問の答えにはならない「から」を「理由を表さない「から」」と呼ぶ。
- (4) タイ語では「วิเศษณ์ประกอบประโยค」と呼ぶ。富田（1957）はこれを「副詞節」と呼び、田中（2004a）は「修飾節」と呼ぶ。

- (5) 本来ならば、タイ語では「เหตุวาทกรรมประโยค」という「結果」を表すものに近い文も存在する。しかし、これは複文ではなく、重文に分類されているため、本文では言及しないこととした。
- (6) この例文の原文は「古い」が訳されていなかったため、その部分のみ筆者が翻訳を追加した。

参考文献

- 澤西稔子 (2003) 「動詞・連用形の性質」『日本語・日本文化 29』 pp. 47-66, 大阪大学
- 白川博之 (1995) 「理由を表さない「カラ」」仁田義雄 (編) 『複文の研究 (上)』くろしお出版
- 高橋清子 (2011) 「タイ語の関係節構文」『70年代生成文法再認識—日本語研究の地平—』 pp. 253-275, 開拓社出版
- 田中寛 (2004a) 『統語構造を中心とした日本語とタイ語の対照研究』ひつじ書房出版
- (2004b) 「接続詞のように使われるタイ語の *thamhây* について—「使役」と因果関係—」『指向 第2号』 pp. 77-92, 大東文化大学大学院外国語学研究科日本語学専攻
- 富田竹二郎 (1957) 『タイ語 (日本語) 基礎 アジア語学双書IV』江南書院出版
- 日本語記述文法研究会 (2008) 『現代日本語文法 6 第11部 複文』くろしお出版
- 前田直子 (2009) 『日本語の複文』くろしお出版
- 益岡隆志 (1992) 『基礎日本語文法・改訂版』くろしお出版
- 益岡隆志 (1997) 『新日本語文法選書 2 複文』くろしお出版
- Debi JaratJaRungkiat. 2000. *Discourse Connectors in Thai from the Sukhothai Period to the present*. Bangkok : Chulalongkorn University Press.
- Kamchai Tongloo. 2009. *Lak Phaasaa-Thai*. Bangkok : Ruamsan Press.
- Nawawan Phanmetha. 2010. *Waiyakorn Phaasaa-Thai*. Bangkok : Chulalongkorn University Press.
- Methawee Yootthapongthada. 2001. *The Study of Relative Clause in Documents of the Rattanakosin Era*. Bangkok : Thammasat University Press.
- Phrayaa Upphakitsilpasan. 1937. *Lak Phaasaa-Thai*. Bangkok : TWP Press.